

報告書名：療養型病床群における多職種による「摂食ケア委員会」の立ち上げとその効果に関する検討

研究者名：田村文誉¹⁾、菊谷 武¹⁾、水野 正²⁾、藤谷朝実²⁾

所 属：¹⁾日本歯科大学歯学部口腔介護・リハビリテーションセンター、²⁾御殿場石川病院

要介護高齢者にみられる低栄養は免疫能の低下を招き、誤嚥性肺炎をはじめ感染症発症の危険因子と言われており、医療機関において入院患者の栄養管理を行う栄養支援チーム（NST）の取り組みが重要である。某介護療養型医療施設に入院患者の口腔ケアと栄養支援を目的に創設した「摂食ケア委員会」における歯科の役割や摂食機能と栄養との関連を検討した。

．「摂食ケア委員会」の立ち上げと経過

某介護療養型医療施設で、平成 16 年 4 月より歯科が開設されたと同時に、多職種から成る「摂食ケア委員会」の立ち上げを行った。委員会は、「栄養支援チーム(NST)」「口腔ケアチーム」「嚥下支援チーム」から構成されており、各チームによる取り組みについて、毎月 1 回の委員会において報告と検討が行われている。

．食形態基準と栄養評価

摂食ケア委員会の栄養支援チーム(NST)では、5 種類の栄養対応別メニューと、5 種類の摂食・嚥下機能対応別食形態を設定している。また、患者の栄養状態を評価するためのツールとして、従来の SGA を改良した iSGA を開発した。

．要介護高齢者の摂食機能の現状

日常生活をケアしている看護師の観察評価の有用性を明らかにする目的で、調査を行った。その結果、全介助の者において食べこぼしなどの摂食機能不全が多くみられ、介護の重症化とともに、食べる機能の問題も増加することがうかがわれた。

．義歯による咬合支持の回復が栄養状態に与える影響

摂食時に咀嚼運動を行うことが観察された対象者に対して義歯を作成し、咀嚼機能の回復が栄養摂取に与える影響を明らかにすることを目的として研究を行った。本研究期間中に臼歯部に咬合支持がなく食事を行っていた対象者 7 名（男性 4 名、女性 3 名：平均年齢 82.4±6.4 歳）に対し、義歯装着前と義歯完成装着後（平均 2.3 ヶ月後）に血液生化学検査により、栄養状態の検討を行った。その結果、ALB、PALB、TF、T-CHO、LYM は、義歯装着前と比較して義歯完成装着後で有意に改善した(p<0.05)。本研究の結果から、義歯装着後の一定期間後には、栄養改善が認められた。血清アルブミン、総コレステロールは生命予後と有意に関係する栄養指標であるといわれており、これらが有意に上昇を示したことは意義深いと考える。

．「摂食ケア委員会」立ち上げによる施設内職員の意識変化に関するアンケート調査

全職種、全職員に対してアンケート調査を行ったところ、多くの職員において「摂食ケア委員会」の発足により院内の意識改革がみられたことがあげられた。